

学校教育制度概論 (第6回) (11月2日)

リアクション

番号 氏名

テーマ 学校教育制度 (その2) 集団の機能、チームとしての学校

1 前回のリアクションを読んだ感想

自分の言葉でまとめられている、利権のツバサも感じられる。
必要に応じて取り戻して、どこが後輩が大切なのかなど
振り返ることも大切。

2 集団を存続させるための4つの機能 (AGIL) とは何か (「引っ張るリーダー・調整するリーダー」参照)。

システム存続のために
必要は機能的要件

A (adaptation) 「適応」... 経済

G (goal attainment) 「目標達成」... 政治

I (integration) 「統合」... 教育

L (latency) 「潜在的パワートの維持」... 文化

A 引っ張る 校長 及 校長
G (仕事) 監督 及 校長
I 調整する 校長 及 教頭
L (情緒) 適応

担任
直接的な
間接的な

3 教師は、どのようなリーダーシップを発揮すればよいか (同上、参照)

目標をもち続け、偶然に起る予期せぬ出来事をチャンスと切り替える能力。

\*空気を手玉 → その場その場に対応する

4 いじめにどう対応する可能性 (「お母さんお父さん...」)

集団主義 (背向した=非国民扱い)

4 「チャーター効果」(テキスト97頁参照)、「予言の自己成就」「ピグマリオン効果」とは何か。

・チャーター効果 → 学校に対する社会的定数がもたらす効果 (明確、導然とした定数がある)。

・予言の自己成就 → 予言の根拠のない予言 (=嘘や思い込み) であっても、人がその予言を信じて行動するようになる、結果として予言通りの現象がくり出されるという現象。

・ピグマリオン効果 → 教育心理学における心理行動の一つで、教師の期待によって学習者の成績が向上する。

5 「チームとしての学校」について、どう思うか。

教師一人一人の仕事量が増加傾向にある中で、差が生じている。

そのような事態を減らすために、チームとして協力したり、互いの弱さを補完し合ったりしている。

しかし、あまりにチームに任せすぎると、責任を押し付けられる感も生じている。

チームの中に上下関係が生じているので、種々のツバサ (学年) も大切にしてほしい。

チームとしての学校は成り立たない。

5 他の人からコメントをもらう

( ) →

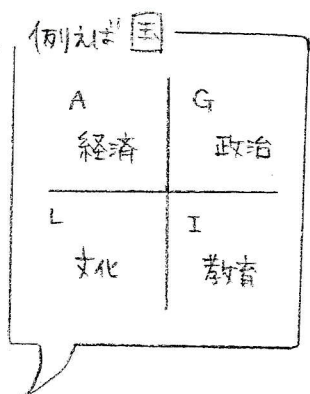
どのような組織・集団・システムも  
その存在を維持・発展させる  
ために AGIL の 4 つの本機能が必要!

Adaptation 適応	Goal attainment 目標達成 集団が定きた以上 目的を達成しなくてはならない
Latency Pattern maintenance and tension 等 緊張処理・ 不満解消 等	Integration 系統合 <連帯・仲良> メンバーの コミュニケーションを図る

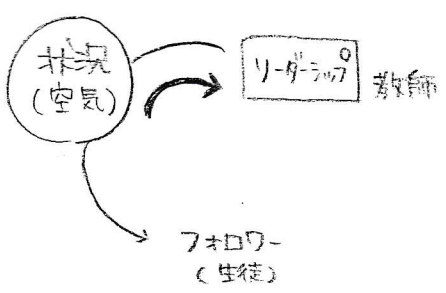
できれば  
いい学校  
いいクラス  
いいサ-クル  
etc

集団をひっぱる時の  
2つの大きな役割!

- リーダーシップにおいては
- A } 仕事 <引っ張る> (主将) ♀
- G } 情緒 <調節> (副将) 母



→ 社会の変動を表せない保守的な  
理論といわれているが、応用がきく!



「引っ張るリ-ダ-  
調節するリ-ダ-」とは  
合コを例に出しています

昔は合コがなく  
合ハ (ハイキング)

戦時  
空気はよくない  
「国に並らう人」扱い

空気をよま  
流される } こわい社会

いじめ

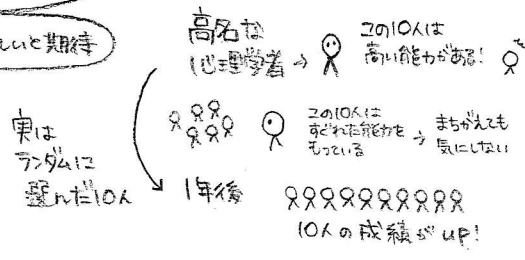
かつて  
教師が状況をつくりだ  
← 今は状況が先にある

Part 1 チャ-タ-  
信任状

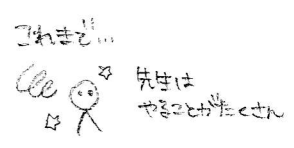
社会の期待が  
これを認めると認める  
これをほめて期待

10人の子供  
予言の自己成就

占いはもういふ効果が!  
OOをするといふ  
→ 本當にそうなる



文化省が提案!  
チームとしての学校



スクールカウンセラー  
スクールソーシャルワーカー

家庭の問題  
貧困問題

土日に  
休める!

ただし問題も...

- ① 校長の権限 (強) → 指示が正しいものがあるが  
チェックする機能がたない
- ② 先生の仕事を分担 → 家庭の事情を考慮しない  
まま指導にあたってはいいか!

金銭面

+ 員増強省  
先生増やす → ¥x  
専門家増やす → ¥0

だから文化省は  
すめたい //